



【今月の森人】  
中野林平さん (6頁参照)



上の4つの写真はダミーです。

# お届けするペレットは 100%茨城産です。

## 茨城の森林から出た間伐材を 石岡の自社工場でペレットにしています。



ペレットストーブ『ソロー』の燃料となるペレットは、石岡市の自社工場生産されています。原料の間伐材は、茨城の森から運び出されたものです。間伐材から生まれたペレットを燃料として使っていたことで、茨城の森はどんどん美しくなっています。

工場敷地内の集積場には、石岡市をはじめ、笠間市、小美玉市、つくば市、茨城町などから運び込まれたスギ、サワラ、ヒノキなどの間伐材や林地残材(山林に放置されている木材)が山積みされて、出番を待っています。

①『ソロー』では、丸太を入荷前に放射能測定器で計測し、値が40ベクレル以下であることを確認したものを購入して、ペレット製造工程へ回しています。

②念のために放射能が残留しやすいとされる樹皮を皮むき機でむいてから、破砕機に送り込みます(皮をむいてあるペレットはむいてないペレットよりも燃焼後の灰の量が少ないのも特長です)。

③破砕機で細かいチップ状にしたあとは、④乾燥機で乾燥させます。乾燥したチップを粉砕機で粉状にしてペレット成型機にギユッと押し込んで熱圧縮すると、直径0・6センチ、長さ2センチの円柱形のペレットのでき上がりです。

シーズンオフ(5月1日から8月31日)の体感ルームは、ご予約のみのご案内となります。ペレットストーブの見学をご希望の方は下記のフリーダイヤルまでご連絡ください。ご案内可能日をあらためてご連絡いたします。

カタログハウス・お客様センター  
**0120-058-059** 月～金は午前9時～午後7時、土曜は午前9時～午後6時、日曜祝日は休業。

**ソロー水戸体感ルーム**  
茨城県水戸市元吉田町1477-11 (駐車場有)  
【交通】  
・水戸駅南口2番バス乗り場から関東鉄道バス「吉沢車庫」行き「一里塚西」で下車徒歩1分。  
・水戸駅南口からタクシーで約5分。

**ソロー守谷体感ルーム**  
茨城県守谷市松ヶ丘3-20-1 (駐車場有)  
【交通】  
・守谷駅中央西口から関東鉄道バス「美園循環」乗車「松ヶ丘3丁目」で下車徒歩2分。  
・守谷駅西口からタクシーで約5分。

カタログハウス  
**ソロー茨城** 茨城県石岡市小見1048-1



茨城の森の明日を  
考えるための基礎知識

連載第2回

# 茨城県産の木材の 生産と販売の現状。

手間ひま掛けて育てた木はどのよう  
流通しているのか？木材市場の現場を直撃。

写真は常陸大宮市の「宮の郷  
木材流通センター」の原木市。  
スギ、ヒノキの大径木も入札に  
かけられる。

## 図1 木材の流通の流れ

林家	森を育てる大切な現場を担う。 下草刈りなどの地道な仕事。
素材業者	民有林や国有林などから原木を 切り出す。
原木市場	原木の活用方法を考えて、 慎重に選び質の良い材を入札。
製材所	原木を角材に製材。用途に合わせ て無駄のない木材を作る。
木材市場	製材された木材を競りにかける。 材木店が買い付ける。
材木店	需要に応じて木材を販売。 さまざまな素材を用意している。
工務店	施主の要望に合わせ木材を購入。 木を使った家が完成する。

一般消費者へ

林家が育てたスギやヒノキは、  
多くの人の手を経て住宅の素材になります。

最初に私たちの家や建築物の元になる木材の流通過程  
を追ってみましょう（図1参照）。

山林や平地林を所有している「林家」と呼ばれる、い  
わゆる「木こり」の人たちは、下草刈りから枝打ち、間  
伐材の伐採など、木材の成長へ向けて地道な作業を続け  
ています。

やがて伐採に適した樹齢を迎えたスギやヒノキは素材  
業者によって伐採されます。

素材業者は民有林や国有林とも作業を受け持ち、機械  
化された作業が中心です。

伐採された素材の原木（皮のついた状態）は最初に、

製材所が原木を入札するため県森林組合連合会などが主催する原木市場で競りかけられます。そこで製材所が素材を見極め、丸太のままの原木を買取ります。茨城県内では茨城県森林組合連合会が主催する市場は4カ所が開かれています。原木市場で扱われる原木の7割はスギ、残り3割がヒノキとなっています。

原木を出荷するのは平成25年度で民間企業が48・7%、国有林34・4%、森林組合などが16・9%です。その販売先は県外が約6割で残り約4割が県内となっています。

製材所に買い取られた原木は、建築用として、適材適所さまざまに加工され、製材品を扱う木材市場へと出荷されていくのです。

### 茨城県内の木材需要の9割強が建材などの製材用です。

原木市場では県内外の製材所が入札に参加します。県内の木材需要の93・9%が建材などの製材としての需要です（茨城県林政課発行の「平成25年木材需給の現況」より）。県内最大級の規模を誇る宮の郷木材流通センター（常陸大宮市宮の郷）では、通常月に2回、競りが開催され、県内の中小の製材業者のほか、県外の大手製材業者が良質の原木を手に入れようと積極的に入札に参加しています。

原木市場では、原木の太さや質を見極めて選別され、原木の直径16〜28cmの柱材に適したものや28cm以上の中

上げがあり、住宅建築の駆け込み需要がありました。が、昨年度はその反動で一気に需要が落ち込んでいます。

また、県産材のおよそ50%の製材品を扱う「茨城木材相互市場」（水戸市渋井町）では、月2回行っていた競りも今年度から月1回に減らすことになりました。

同市場の取締役木材営業部長の鈴木祐二さんは「茨城県産材のグレードは高い。雪もなくそれなりの寒さもあり木質が詰まっていて強度にも優れている素材のメリットは大きい」と胸を張ります。

しかし、鈴木さんは「以前は市場の競りでしか木材は買えませんでした。そこで優良な木材を手に入れようとしていたのですが、現在はいつでも買えるようになり、高値で競り落とす必要性がなくなり、買い手にとっては買いやすい状況と言えますが一方で、価格競争

目材、16cm以下の小径材など、用途に合わせた原木が製材業者へ引き取られていくのです。

製材所できれいに加工された木材は、木材市場の競りかけられます。現在は競りの日以外でも購入することができず、その木材を買えるのは材木店のみです。

柱や板材、垂木などに加工された木材は競り落とした材木店に引き取られ、住宅建設などに携わる工務店などの注文に応じて販売されます。

現在、木造住宅30〜35坪の家（標準2階建て）を建てるのに5立方メートルの木材が必要とされています。材木店はオーダーに合った柱材や板材などの木材を仕入れる必要があります。

木を育て、実際の家の素材となるまでにはこのような多くの過程を経ているのです。

### 昨年の消費税増税後、住宅着工数の減少で価格も低迷。

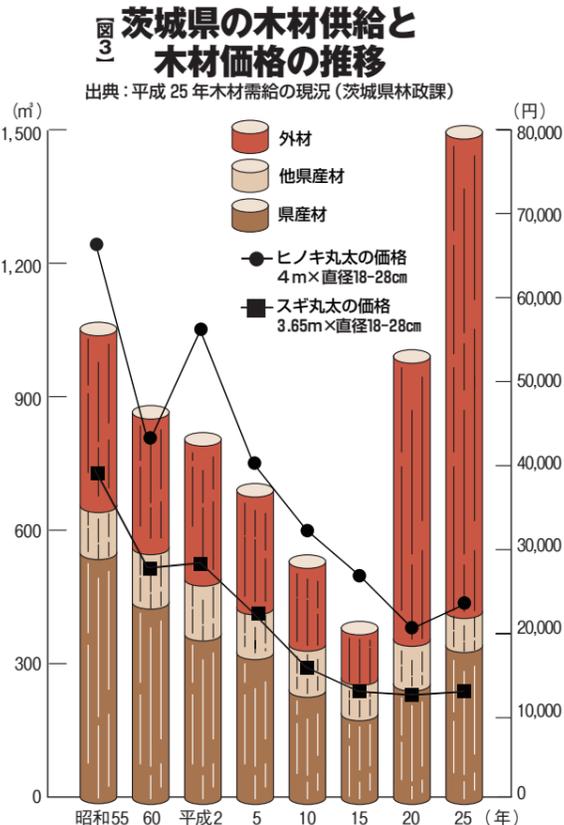
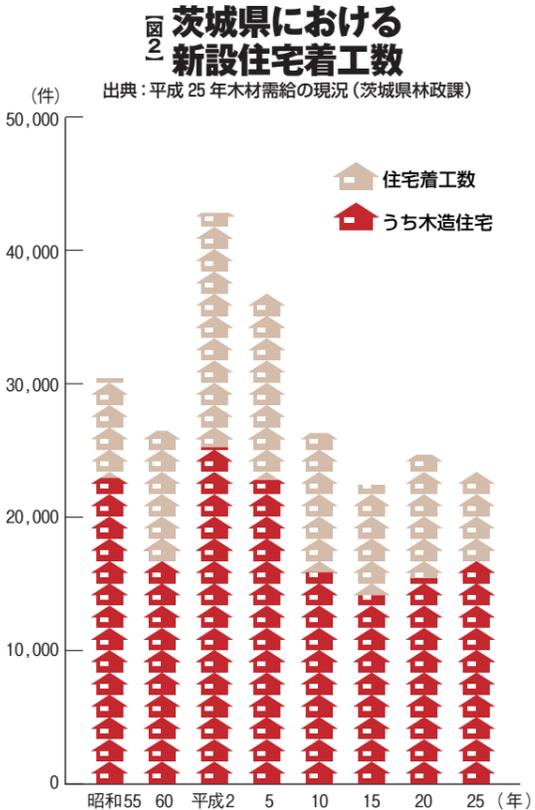
茨城県内における新築住宅の着工数を見てみると、【図2】のように平成2年をピークに減少傾向にあります。そうした中、木造住宅の着工数も伸び悩み、木材の販売価格の低迷につながっています。

平成27年4月現在、茨城県における同26年度の木材需給の状況を示す資料はまだ発表されていませんが、昨年度の状況について、県森林組合連合会の會澤義昭代表理事専務は次のように話します。「25年度は消費税の引き

が激しくなってきたという現状を示唆しています。

茨城県産の木材は品質も高く、住宅建材に適した優良材です。しかし流通過程では、平成19年にベイマツの大手製材工場が稼働するなど県内における外材への依存率は高くなってきているのが現状です。【図3】のように下落傾向にある県材価格を好転させるためには、外材に左右されない確かな需要の確保が求められています。

そうした中、国では間伐材の利用促進を図るため、平成23年度より間伐材の補助制度の対象を樹齢35年から60年まで引き上げました。木材の安定供給や産業の活性化、長期的な森林の育成などに対する取り組みが行われているのです。上流・下流の対策だけでなく、その中間産業の潤滑を促す行政の役割は、今の日本の林業にとって、ますます重要になっています。



木材市場では材木店の問屋などが入札に参加して柱材などを手に入れる。



# 中野林平さん

なかの りんべい 77歳 (常陸太田市)



樹齢15年、直径20センチほどのクヌギが中野さんのシイタケ栽培のホダギになる。

中野林平さんは江戸時代からつづく山持ちだが、「いまやシイタケ屋ですよ」と笑う。クヌギを使ったホダ木からは、毎春、肉厚の大きなシイタケがどっさり収穫され出荷される。山を維持する資金を確保するのも山持ちの責任である。

中野家は林平さんの代で17代目と伺いましたが、代々林業を続けてこられたのですか。「慶長7年(1602年)に中野家の先祖が小菅村に落ち着きました。徳川の代になってからは、水戸藩で代々役職を務めるとともに材木商を営み、那珂湊から江戸に出荷していました。山を相当もっていて手広く商売をしていたと聞いています。しかし、祖父が事業に失敗して、この郷一の杉山

「山は気の長い博打のようなもの。そこで50町歩の山を維持するための資金源として、山のクヌギでシイタケ栽培をしてみました」

をすべて伐って弁済にあてました。古い木が一本もなくなくなった山を引き継いだ父は、苦勞してようやく植林を終えたのですが、私が4歳のときに40歳で亡くなってしまいました。父の死後は出入りの人たちに管理を手助けしてもらい、高校卒業後に17代目の当主になりました」

中野さんの代になって、シイタケ栽培を手掛けるようになったのですか。「そうですね。私は50町歩(約50ヘクタール)の山を受け継ぎましたが、山持ちでありつづけるためには、山を持ちこたえるだけの構え資金がなくてはなりません。でも本当に木がお金になって手元に入るのは50年後でしょ。しかも、将来の山林の価値は見通しがつかない、いわば気の長い博打のようなものです。そこで、資金源を確保するために、親父が炭焼きのために植えていたクヌギを伐ってホダ木にしてシイタケ栽培を始めたのです」

シイタケ栽培に使っているクヌギは、もとは炭のために植えられたものだったんですね。「茨城の炭は、備長炭ほどではないけれど、昔はけっこう有名でした。私も昭和40年代まではシイタケと並行して炭も焼いていました。やめたころは1俵350円だったかな。当時、灯油が台頭して炭のコンロから石油コンロになり、それからガ

スになった。これも時代の趨勢ですね」

シイタケ栽培について教えてください。「菌を植え込むホダ木に使うのは15年くらいクヌギが主です。それ以上大きくなると重くて腰がまいてしまうし、皮が厚くなって発生量も少なくなります。ホダ木1本に20カ所くらい穴をあけてシイタケの菌を植え込み、ヨロイ伏せという組み方で山に伏せ込みます。3月に植え込むと、翌々年の秋には収穫して出荷できます。ホダ木は2年くらい経つとシイタケが生えなくなるので、上下を入れ替えて刺激を与えます。ホダ木を組むのも入れ替えるのもなかなかの力仕事です。ホダ木の寿命は約5年。役目を終えたホダ木はそのまま土に返すと、それがクヌギ林の栄養になります」

クヌギなどの広葉樹には、針葉樹とはまた違った利用価値があるんですね。

「それだけじゃない。広葉樹の腐葉土は栄養豊富だから、森の腐葉土に含まれる養分が川から海へ流れていき、海中のプランクトンを育て、それを餌にして魚が育つという自然のサイクルにも大いに貢献しています。だから、いま、山へ広葉樹を植えようという活動が広がっています。常陸太田にも、久慈浜など海の人たちが植林や下草刈りの手伝いに来てくれますよ」



# 岡田昭一さん

(『まんまや』店主) ●石岡市ソロー歴4カ月

「火が見えるっていいねえ、あつたかいねえと、お客さまの評判も上々です」

## 蕎麦

麦好きが高じて八郷の蕎麦街道で蕎麦屋を始めて5年経ちました。店舗は築100年の米蔵を改造したもので、広さは約14坪(約28畳)あります。雰囲気はいいのですが、木造で隙間だらけだから冬場はとにかく冷える。大型の灯油ストーブをガンガン焚き、奥に小型の石油ストーブも置いていたけど、なかなか暖まらなくて困っていました。

点火して10分もすると温風が店全体に行き渡って、ふわっと心地いい暖かさに包まれます。石油ストーブより暖まるのが早いし、飲食店なので臭いがないのも助かります。デザインもシンプルだから壁板とじっくりなじみます。お客さまも店に入ってくると、皆さん、「ソロー」の前に手をかざして「あつたかいねえ」「火が見えるっていいねえ」「ベレットってなんなの?」と、ストーブ談義に花が咲きます。開店前後も合わせて1日約4時間半使用して、だいたい3日で1袋ですから、費用は石油と同じくらいです。掃除はもっぱら女房ですが、灰の量も少なく掃除が簡単だから石油ストーブより楽だと言っています。

「まんまや」手打ち蕎麦と定食の店。営業時間/11:30~14:30、夜は要予約 17:00~19:00 定休日/月・火 (祝日の場合は営業) 電話/0299-43-2815

「排気が室内に出ないし臭いもない。レベル2で約20℃の穏やかな暖かさが保てます」

2012年9月に退職を機に夫婦二人で米粉ハウス「ゆうゆう」を始めました。妻の小麦アレルギーがきっかけでしたが、同じ悩みを持つ方々によるこぼれが、実は店を建てる時、いざれ薪ストーブを使うおうちで薪ストーブを置く場所をつくってもらったのです。でも薪ストーブはかなり高額なので、なかなかエアコンから切り替えることができませんでした。迷っていてよかった(笑)。おかげで、薪ストーブより価格も安くて操作の簡単な「ソロー」と出会えました。

この2月から使い始めましたが、赤い「ソロー」は白壁とマッチしてお店のシンボリック存在です。8畳のカフェスペースと8畳の厨房、吹き抜けの天井でつながった隣の6畳の休憩室まで

1階全体がほんわか暖まります。ふだんはレベル1、寒い日はレベル2で焚いていますが、だいたい20℃くらいに保たれています。

お客様はアレルギーに悩む方々が多いので、空気や埃にはとくに気を使いますが、「ソロー」の温風は強すぎず穏やかで臭いもないです。エアコンとちがって唇もカサカサしません。お客さまにも「火を見ていると心が落ち着きますね」と好評です。

うちの店は高台で、店から一望できる美しい山並みもセールスポイントの一つです。間伐材のベレットを使うことで、美しい茨城の山並みを守ることにも役立てたら、うれしいですね。



# 富永堅司さん 裕美子さんご夫妻

(『ゆうゆう』店主) ●常陸太田市 ソロー歴2カ月

「ゆうゆう」米粉パンとクッキーの店。営業時間/12時~17時(ランチは1日1組要予約) 定休日/月・火・金 米粉パン教室(要予約)。電話 0294-33-6860